

会 議 録

1 会議名

令和2年度第11回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

・古城小学校の学習環境の改善に向けた在り方・方策の検討状況について（公開）

【諮問事項】

・直江津区の小学校の統合について（公開）

【協議事項】

・地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

令和2年11月17日（火）午後6時00分から午後7時29分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

5人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 中澤武志（会長）、青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、
磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、竹田禎広、
田中 実、田村雅春、林 昌宏、古澤悦雄、町屋隆之、丸山岳人、
水澤敏夫、水島正人（欠席者1名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、
霜越会計年度任用職員
教育総務課：新部課長、戸田参事、内山係長

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中澤会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：河野委員、久保田委員に依頼

本日の会議の流れについて、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

前回の会議において、古城小学校の学習環境の改善に向けた在り方・方策の検討状況について教育総務課から報告がなされ、その際、委員の皆さんから様々な意見をいただいた。そのため、今回は教育総務課から前回会議の報告内容について補足説明をいただき、その後、諮問について皆さんから審議していただきたい。

諮問とは、市長が政策判断の参考とするために、区域の住民の生活に及ぼす影響の観点から意見を求めるものである。今回の場合であれば、学校統合の善し悪しではなく、住民の生活にどのような影響があるかという観点で議論をお願いしたい。また諮問で求める意見以外のことについて、もっと議論が必要だということになれば、改めて自主的審議で意見交換を行っていただければと思う。

【中澤会長】

教育総務課に、先日の報告の補足説明を求める。

【教育総務課：新部課長】

先月の直江津区地域協議会において、令和4年4月から古城小学校を直江津小学校に編入統合したい旨を説明させていただいた。その際に様々なご意見をいただいた。地元に対して、もっと丁寧に説明をするようにという宿題をいただいたものと受けとめている。本日はその辺も含めて、これまでの取組の経過等を報告させていただく。

- ・資料No.1「古城小学校の学習環境の改善に向けた在り方・方策の検討状況」に基づき説明

先回の直江津区地域協議会において「統合先として直江津南小学校は、検討の俎上には上がらないのか」というようなご意見をいただいたので、そのことについて若干触れさせていただきたい。直江津小学校を統合先とする理由について、まず私どもとして優先すべきは地域の繋がりという視点で、同一中学校区内の、隣接校との統合を第一ととらえている。私ども教育委員会が目指している複式学級の解消に向けて、直江津小学校と

の統合では達成が見込めないのであれば、直江津南小学校への統合の検討ということも俎上に上がってくるかと思うが、今現在そうした状況ではないということである。さらに古城小学校は直江津小学校から分離した経緯があり、古城小学校区の地域の皆様の中にも、分離前の直江津小学校を卒業されたOBの皆さんもおいでである。こうした経緯を踏まえると、直江津小学校への統合というのはごく自然な形なのではないかととらえている。

「スクールバスを運行するのであれば、直江津南小学校との距離は、数百メートルとわずかであるので、そこはどうなのか」というお話だが、仮に直江津南小学校の統合を検討することになれば、先ほど申し上げたように、地域の繋がりを越えての統合ということになるので、そこはまた別の合理的な理由というのが必要になってくると思う。古城小学校の子どもが、直江津小学校の前を通り過ぎて、直江津南小学校に通学すると直江津小学校校区の皆様は、それをどう受けとめられるのかということもある。こうした説明は、古城小学校や直江津南小学校の校区の皆様には申し上げてはいないが、すでにその両校区の皆様ともに直江津小学校への統合を、ごく自然に受け入れていただいている。本日は、この後正式に諮問をさせていただく予定だが、このような経過をぜひご理解いただきたいと思う。

【中澤会長】

説明に対し、質疑を求める。

【田村委員】

次の資料の諮問理由に「直江津小学校との統合により複式学級を早期に解消する必要があると判断したことから」と書いてある。我々が最初に説明を聞いたときは、多様性の尊重とか、そういったことだった。諮問理由に「早期に複式学級だけを解消しよう」と書いてある。それは正しいと思う。今の状態は直さなければと思う。

前回の直江津区地域協議会の後、地元住民になぜ説明しなかったのか理由を知りたい。また、子どもたちの教育環境としては、多様性の尊重でなるべくクラス替えができる学年を作ったほうが良いというのが、教育委員会の方針だと前の資料にもあった。今回は、諮問の内容が複式学級を早期に解消するという言葉が入っているので、私はあえて反対しないが、前回の説明と若干ちょっと違うなと思う。これはベターであって、ベストではない。例えば統合して令和5年度に1年生13人、2年生も13人とある。将来、果たして子どもの人数が保てるのかどうか。その長期的展望をどのように考えているのか

お聞きしたい。古城小学校の問題は、可能性として直江津小学校でも起こり得る問題じゃないかと思うので、お聞かせ願いたい。

【教育総務課：新部課長】

地元には、なぜ再度説明をしなかったかの質問については、地元へ再度説明する機会について、地元の町内会長やPTAの代表、そういった方々にまずは相談をさせていただいた。そうした中で、地元では、「合意している話を、なぜまたあえてする必要があるのか。地元とすれば、教育委員会が提案している中身で良いのだから、それで進めていただきたい」ということで、再度確認させていただいた。それと、複式学級の解消の話と、クラス替えの話、いわゆる2クラス以上という説明をもう少しわかりやすく説明させていただくと、国の方針の中では、適正規模のクラス数というのが、2クラスから4クラスと言われている。これはクラス替えができるということで、子どもたちの学習環境として、そこでまた社会性を養うことができるという観点から、適正な規模であると言われている。それが、クラス替えができる学校規模ということである。今私どもが目指しているのは、学年単位で授業を持つことができない複式学級の学校が、市内小学校50校のうち10校あるということで、ここをまずは第一の取組として進めていかなければならないということで、今回取組を進め、古城小学校と直江津小学校との統合を提案させてもらっている。古城小学校が直江津小学校に統合することで、国が唱えている適正規模には至らないが、当面は複式学級にはならないので、今後10年、20年先に、仮にまた複式という事態が生じたということになると、それは、またその先のことをその時点で考えていかなければならない問題だととらえている。当面の取組としては、まず複式学級の解消ということを目指して進めさせていただきたいと考えている。

【中澤会長】

他にどうか。

【町屋委員】

前回の会議の時に会長が「地域の住民の人たちの学校をなくすということは、心の拠り所がなくなる」というような話をされたと思う。実際、地元の人がどう思われているか、PTAや町内会長と話をしたというのはわかったが、教育委員会のほうでどのように把握しているというのがあれば、お聞かせ願いたい。

【教育総務課：新部課長】

私どもとすれば、地域への説明会を1度開催させてもらっている。その前に、順を追

って話をさせていただくと、PTAの保護者の皆さんとの意見交換会の中で統合を進めて欲しいという大多数のご意見をいただいたのがスタートである。

その後、町内会長に保護者の皆さんの思いを伝えに行った際に、町内会長は町内会長のレベルで、町内会の役員の皆様にもすべて話をさせていただいて、すべての皆さんから、それで進めてくれという返事をいただいているということもお聞きした。

そうした中で、次のステップとして「地元の説明会を開催しますか」と言った際には、「そこまでする必要もない」とも言われた。でも、町内会の役員の皆さんだけではなく、もっと一般の皆様方への説明も必要だということで、町内会長からご理解いただいた中で、無理やり開催させていただいているという経過がある。それこそ、地域の人すべてに聞いてまわったわけではないが、私どもが、今まで相談、協議をして、その説明会の場で感じ取った感覚としては、大方の皆さんから今回の件についてはご理解をいただいていると判断している。

【中澤会長】

他にどうか。

【水島委員】

実は先般、町内会長にお会いして現状を聞かせていただいた。確かに新部課長が言われたとおりである。ただ一つ危惧していることは、先頭に立つのは子どもである。子どもが、不登校になったりいじめにあったり、そういうことを今現在で結構なので、どのようにお考えになっているのかお聞きしたい。それと、古城小学校に在籍されている先生が今の子どもの状況をよく知っているので、その先生方が一緒に直江津小学校へ行かれるのかどうか。これは人事のことなので、教育委員会としても言いにくいことかとは思いますが、話せる範囲で話していただきたい。

【教育総務課：新部課長】

1点目、子どもの不登校をどう考えているかは、学校の統廃合に限らず、どこの学校にも当てはまる課題だと思う。そこは、学校の先生が親身になって対応しているし、そういったことがおきれば、私ども教育委員会と情報を共有する中で子どもたちのケアに当たっている。私どもの懸念は、今回の統合によって、そういうことが生じることはないように、受け入れ側となる直江津小学校の学校関係者の皆様からも、格別なご協力をいただく中で、そういった子どもたちを出さないように、最善の努力をさせていただきたいと思っている。そうしたことで、ぜひご理解いただければと思う。

【教育総務課：戸田参事】

2点目は、古城小学校の教員と一緒に直江津小学校に行くかという話だが、人事の事なのでここで詳しく説明するのは控えさせていただきたい。通例だと、全員というわけにいかないが、子どもたちを知っている職員が残って統合先に入るという例がある。そういったことも含めて、来年度1年かけて、交流しながら子どもたちのことを知ってもらい、受入側にもよく準備をしてもらう予定である。

【中澤会長】

他にどうか。

【竹田委員】

統合に関しては、致し方ないという部分もあり、それは賛成させていただくが、子どもたちの統合後のケアと登下校の安全の確保をしっかりとお願いしたい。

【中澤会長】

前回お願いした、保護者や地域の人々への説明を積み重ねてきているという資料もいただいたし、また今後の取組も紹介していただいた。

子どもの学力も含めて、やはり一定の集団の中でのほうが伸びるというようなことも言われている。そういうことも含めて、全校17人というのは、さすがに1日でも早くという保護者の皆さんの気持ちも十分理解できる。

では、【報告事項】「古城小学校の学習環境の改善に向けた在り方・方策の検討状況について」は以上で終了する。

次に【諮問事項】「直江津区の小学校の統合について」の説明を求める。

【教育総務課：新部課長】

・資料No.2「直江津区の小学校の統合について（諮問）」に基づき説明

【中澤会長】

説明に対して、質疑を求める。

【丸山委員】

統合のことについては賛成だが、統合後の古城小学校の跡地について、廃校になったときに建物がどのようになるのか懸念している。廃校後どのような体制で管理をやっていくのか、もしわかっていればご教示いただきたい。

【教育総務課：新部課長】

廃校後の跡地有効活用は、今の学校の統合が決まらない限りそこに着手できない。当

然そういった課題が出てくることは承知をしているので、この統廃合の話が正式決定した時には、有効活用について検討を並行して進めてまいりたいと考えている。他校の現状を申し上げると、学校はほとんどが指定避難所に指定されている。古城小学校も避難所になっているので、すぐに建物を壊すことはないはずである。有効活用ということで決まるまでの間は、最低限の維持管理を行っていかねばならないし、建物がすぐ朽ちることがないように、適切な維持管理を行ってまいりたい。

【中澤会長】

他に意見等を求めるがなし。

採決してよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

諮問第54号直江津区の小学校の統合について、支障なしの方の挙手を求める。

(全員挙手)

諮問について支障なしと決する。

— 教育総務課 退室 —

続きまして、**【協議事項】**「地域活動支援事業について」事務局へ説明を求める。

【小池係長】

以前の会議で、今年度の地域活動支援事業の進捗状況について、直江津区地域協議会でも把握させてほしいという意見があったので、今回報告をさせていただく。

市では、地域協議会には地域活動支援事業の採択審査を依頼しており、採択後の事業の補助金交付決定、また事業の実施報告までは市が責任を持って行うということになっている。今までは事業の進捗状況について報告するという事はなかったが、今年度新規の大きな事業もあったため、事務局から各事業の概要について説明後、「直江津アートプロジェクト事業」の提案団体から取組状況について説明をしていただく。

・資料No.3「令和2年度地域活動支援事業を活用した事業」に基づき説明

【直江津アートプロジェクト事業提案者】

・資料No.4「直江津アートプロジェクト事業進捗報告」に基づき説明

【中澤会長】

説明に対し、質疑を求める。

【古澤委員】

説明を聞いて皆さんまだちょっとわからない部分があると思う。アートが具体的に、どういう形で、どういう様式で形になってくるのかを付け加えていただければわかるが、

この文面だけだと、どういったものができ上がって3月に展示するのかわからない。

【直江津アートプロジェクト事業提案者】

どういものができるかは、そのアーティストにもよるが、1番目の遠隔の共創は、音楽に関する芸術家を置いている。2番目の遠隔での共創では、建築に関する芸術家を置いている。3番目の遠隔から始まる共創が、様々な芸術家を選定はしているが、何か目に見えるとか造形物が1番わかりやすいアートかもしれないが、その制作過程で、地域を調べたり、地域の音を収集したり、においを収集したり、においを何か展示するみたいなこともアートかなと自分たちは考えているので、一言では説明しづらい。

【古澤委員】

わかりやすいようにしていただいたほうが、委員の皆さんの中でも創造的で素晴らしいという見方ができると思う。実際、私にはわからない。だから、逐一説明していただいて、直江津を創造的に動かしていただくことを期待している。

【中澤会長】

他にどうか。

【町屋委員】

審査の時から委員の皆さんは、すごく悩んだ部分があると思う。本来審査する地域活動支援事業は「これから、こんなイベントや取組をしたいと思うから、これを提案する」というものだが、今回、この事業に関しては具体的でない部分が多く、審査、審議をしたので、普通であれば「ちょっと、どうなのか」と思うような審査だった。

でも、そこで採択されたのであれば、「採択されたからいいや」ではなくて、そういうとおり方をしたからこそ、より懇切丁寧な途中経過を心がけて欲しい。それが、受けた側の責任もあるし、受かった側の責任もあるから、そこを上手に一緒にやっていただけたらと思う。もうそれ以外言いようがないので、とにかく頑張ってもらいたい。

【中澤会長】

他にどうか。

【田村委員】

私にはちょっとわかりづらい。まず共創とは、ともに作り上げるという意味があると思うが、全体のイメージが全くわからない。質問すらどうやって質問していいかわからない。最初の段階から、意味不明だなと思っていたが、再度のこの文章は、さらにわからない。

【水島委員】

今の説明で、多分、音楽であれ、美術であれ、芸術というのは、いろいろなことが芸術なのだと思います。皆さんがいろんなことを考えられて、この地域を良くしようということは伝わってくる。

ただし、このように皆さんの前で事業として支援をお願いする時に形がないとなかなか理解が得られない。これも事実である。今日おいでになられた人が、その形を示そうといっても、今、計画段階でこれからいろんなことが出てくると思う。そのために、これだけの財力が必要だということだと思ふ。だから非常にわかりにくいですが、芸術というのは、多分、我々になくってはならないものだから期待している。

【中澤会長】

皆さんが、まだよくわからないという状態であるが、3月の段階では未知なるものができるということで、着々と準備を進めておられるということであるので期待申し上げます。

他に意見を求めるがなし。

— 直江津アートプロジェクト事業提案者 退室 —

続いて、その他の地域活動支援事業について質疑を求めるがなし。

次に、視察研修の感想や反省等の意見を参加者に求める。

【今川委員】

五智公園で、いろいろ説明を受けた。わかりづらいところもあったが、研修会としてはよかったと思う。

【河野委員】

五智公園は丁寧な説明で大変勉強になった。直江津屋台会館の雨漏りは直してほしい。また、玄関のエントランスの天井が落ちかけているところがあって危ないので、そこも直してほしいと思った。

【久保田委員】

五智公園はあれだけ整備を一生懸命やっていたので、もっとPRして大勢の人から利用してもらってもいいのかなと思った。

それから、直江津屋台会館だが、あれだけのスペースの建物をあのまま放っておくのはもったいないと思う。活用方法をもう少し考えていけたらと思う。うみがたりに続く物産館というふうなものもあつたらいいのではないか。そんな話もちよつと出ていたが、

活用を考えていきたいと思った。

【坂井委員】

同じような意見になってしまうが、五智公園は、よく説明をしていただいて、珍しい植物もあるという話を初めて聞いた。でも、あまり周知されていないのではないかなと思ったので、ちょっともったいないという気がした。

直江津屋台会館については、想像していたよりは綺麗というか、雨漏りしていると言われた割には、カビ臭いということもなくて安心した。やはり、活用をしていただければというのが1番の感想である。どこへ行ったときか思い出せないが、やはり同じように屋台を展示しているところがあった。そこは、ガラス張りにして屋台が見えるようにしているところがあったので、そういうのも考えていただければなと思った。

【田村委員】

五智公園の説明は非常に丁寧であった。山頂まで何キロという看板は、地域活動支援事業のお金を使っている。上越市と、五智公園を育てる会の取組の住み分けが、どこからどこまでが地域支援事業なのかははっきりしないのが疑問である。

2つ目は、三の輪台いこいの広場。お金がかかるかもしれないが、自然エネルギーを上越市が先頭を切ってやったが、残念ながら維持費が大変高くなった。また、その道中のゴミがひどい。何か取り締まる方法がないのかと思った。

直江津屋台会館だが、屋台が置いてあるだけになって、以前は健康診断もしていた時もあるが、修繕しないと利用価値が遠のいてきていることを感じた。市民いこいの家は、ものすごくきれいだと思った。しっかり整備されている。温浴施設をなぜ廃止にする方針なのかと思った。平日で100人、土日祝日で200人ぐらいの高齢者が利用されていると聞いた。

【古澤委員】

五智公園は整備をきちんとなされていた。今年度「ベンチが欲しい」という提案があったが、補助対象にならなかった。私は個人的に見て、あれだけの距離があれば、ベンチがあれば市民も喜ぶのではないかと感じてきた。だから、利用される人の立場に立てば、やはりその設備も柔軟に考えたほうがいいのかと思った。

今日も五智公園を歩いてきたが、「クマやイノシシが出ますから、十分気をつけてください」というような看板があるので、その辺を皆さんにお知らせしながら、五智公園のすばらしさを誘導したほうがいいのかと思っている。

あと三の輪台いこいの広場であるが、本当に寂しいなというのが感想である。私も子どもが中学生のころに行った覚えがあるが、全く殺風景になっている。時期も時期だったが、あれではまだもう少し利活用があるのではないのかと思っている。施設もあるがそれも閉じている。もう少し昼間の対応等を考えていただければなと思っている。

あと、直江津屋台会館だがやはり直江津の要はここに尽きると思う。ちょうど直江津の真ん中で、駐車場等もあるので、あれを活性化するための施策というものをこれから考えていったらいいのかなと思っている。

【町屋委員】

今回の視察研修はすごくよかった。平日の午後からのわりにすごくよかったと思う。

私は、五智公園、三の輪台いこいの広場が大好きで普段から走りに行ったりしている。やはり、一つ一つが地域の宝だと思った。直江津区は、小さいようでそれなりに広く、中央1丁目の私が、五智の人たちが一生懸命整備してくれている五智公園は地域の宝だと思っている。今日、古城小学校の話もあったが、古城小学校も福島城を愛する会の皆さんたちが一生懸命やっている。ライオン像のある館だって、本当に三八朝市周辺の人たちが一生懸命やっている。そうやって、頑張っている人たちに対して、同じ街中でもなかなかその目もくれない人もいっぱいいるので、もっと丁寧に見るべきだと思う。五智公園が大事だからもっと活用したい。だから私もベンチが必要だとは思っている。ただそのベンチを作るのが、この地域活動支援事業ですべきことなのかどうかは、また別である。

だから、支援の仕方もしくは、利活用の仕方という部分に関して地域活動支援事業だけではなく、普段から僕らの中でいろいろな話ができたらいいと思う。特に五智公園は一生懸命やっという人がいる中で、皆さん残念だとおっしゃる三の輪台いこいの広場については、せっかく直江津に大手でキャンプ場も運営するようなメジャーな企業が来てくれたのだから、そういうところとコラボしてあそこはバーベキュー広場にできないかとか思っている。また、私は月に1回ぐらいはテントを干しに行く。テントを張ってあそこに泊まるわけではないが、テントを乾かさなければいけない。昔からけっこうバーベキューをやったりしているが今使う人が少ない。活用することが、不法投棄の1番のブロックになるのではないのか。誰も来ないところだから、ゴミを捨てようというだけで、土日たくさん人が来るようなところで、誰も不法投棄はしないと思う。市民の人に使ってもらってこそであって、誰も行かなければ寂れて当然だと思う。そこ

を憂いてみても仕方がない。それは誰がすることなのかと言ったら、それを思った人がするだけで、本来ここですべきことかどうかは微妙なところだと思う。

だから、今回バスで一回りするだけでも、すごくよかった。普段自分で行っているところが、また違う目線で見られてよかったと思った。

車窓からコスモスやひまわりを見るのも、普段自分で車の運転をしていると、なかなかそんなに目に入らない。人に運転してもらおうと、こういう目線で見られるのかと思った。

あと最後に、直江津屋台会館に関してはあれを作ったのがもう30年近く前である。直江津の宝である屋台が入っているので、今更、雨漏りが云々とかいうのは問題だが、そこをどうこうするというのは、ここだけの議論では多分何もできないし要望してもらって通るかどうかは別である。ここは本当にコンセプトだけでしかないのかもしれないが、もっともっと大局的に何か新しいものができたらいいのかなとは思っている。

【水澤委員】

1番目に五智公園を育てる会の問題だが、行政との作業内容、それから住み分け。その辺がやっている人たちもそうだし、行政もどうしたらいいかわからないのが現状だと思っている。この辺もしっかりすれば、もう少し効率のよい作業ができるのではないかと考えている。

それと、直江津屋台会館は、雨漏りとか年数も相当経っていて、管理方法に問題があるのではないかと。雨漏りしたらどうするか等、その辺の管理が見えてきていないのではないかと。

市民いこいの家だが、私が想像した以上に立派な建物で、今後もう少し有効活用できたらと思っている。

【水島委員】

初めて出席をさせていただいた。私が感じたことは、視察の時間が短いということである。できれば、もっとたくさんの時間を取っていただいて、過去の地域活動支援事業をやったところを見るとか、今後の中でお考えになって、活動させていただければと思っている。ただ時間は決まっているので、その範囲というのはよくわかっているが、そういうことをちょっと感じた。ここの意見については、皆さんがおっしゃられたとおりである。

【青山副会長】

三の輪台いこいの広場に行く途中の道路の廃棄物だが、洗濯機だとかよく見てきたが、翌週テレビを見たら、撤去しているのが放映されていたので感心した。直江津屋台会館の雨漏りの修繕について、直江津地区町内会長協議会で市に要望して市からは予算をつけたいと温かい返事もらったそうだ。我々としては、1614年に、松平忠輝が福島城を高田に移したときに、八坂神社は直江津に残った。だから、今回の八坂神社の屋根の修理に関しても案外スムーズに行ったのではないか。直江津の屋台は直江津の文化そのものであろうかと思っている。ぜひ、雨漏りを直して、あそこに観光物産センターを持ってきたらどうか。今は、ただの車庫じゃないかという人もいる。その辺を、4月ころから危惧したわけだが、皆さん方も、ぜひ、あそこの利活用について議論したほうがいいのではないかと思っている。

【田中美佳副会長】

皆さんの意見と一緒に、今回こういう機会を設けさせていただいて、見させていただいて、普段何気なく見ていたりするところがじっくり見ることができ、改めて勉強になった。五智公園の案内をしてくださった方が、大変時間を割いてやってくださって、あれほど綺麗になっている。若い会員がいらっしゃらないというお話も、他のところからお聞きした。若い人が知らないことも多いので、やはりPRして若い人が少しでも、何かできればいいのかと思った。他の施設も皆さんが言われたように、何か他に活用できることがあればいいのにと。まだ綺麗な建物が多かったのもそのように思った。

【中澤会長】

思った以上によかったという感想を持っている。時間も、もう少し長ければよかったかなと思うが、とにかく五智公園もそうだが、各所で行政の人とか、ちゃんと待っていてくださって一生懸命説明してくださり、「上越って良いところだな」と改めて再発見した。水島委員がさっき言ったように、もし可能であれば、もう少し時間を延ばして、過去に地域活動支援事業でやったような所を見て回るという手もあるのかなと思うが、いずれにしろ百聞は一見にしかずで、これからまた直江津区の問題とか、課題に取り組んでいかなければいけないので、その助けになればなと思っている。

「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・五智地区町内会長との意見交換会：12月8日（火）
- ・次回地域協議会：12月15日（火）6時～

1 1月25日に28区の地域協議会の会長が集まり、会長会議があるので、その報告等をさせていただきたいと思う。

先日の直江津地区の町内会長との意見交換会では皆様のご協力により、意義あるものとなった。お礼申し上げる。

直江津屋台会館について、何人かの委員が活用について意見されていたが、以前担当課から、サウンディング市場調査の実施について報告がここでなされた。その時スケジュールを説明したが、スケジュールどおりにいけば、調査のほうは終わって、これから、その結果の公表になってくるのかと思うので、地域協議会で活用方法について話し合うのもいいと思うが、担当課でどのように進めているのか、事務局で確認しながら進めていきたいと思う。

【中澤会長】

今ほどの話だが、ほとんど方向性が決まってからここへこられて、こうなりますからと言われても困る。その辺の部分も、事務局のほうで事前にキャッチして、こちらが協議できるような余地を残していただいた中で、話合いをしたいと思っているし、反省事項として、古城小学校の問題も風のたよりには聞いていたが、この地域協議会でそれを扱ったことがなかった。そういうことも含めて、何か問題になりそうなもの、これから我々もある程度事前にキャッチして話合いをする。そういうものが持てればなど思っている。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。